

大畑恵 令和6年3月度特別作品

古希過ぎて 大畑恵

私は、古希を過ぎて、まだ看護師として働いています。働き始めの頃は、まさかこの年齢になるまで働いているとは思いませんでした。子育ての時は、一旦仕事を辞めて三人の子どもと過ごし、子育てを終えて仕事に復帰しました。いつ辞めようかと思っている間に、古希を過ぎていました。働き盛りの時は、現場の仕事より書類などの仕事の方が多く、患者さんと直接触れ合うことが少なかったのですが、今は、年離れた方や色々な病気の方々のお世話をさせて頂き、人との触れ合いを大切に働いています。何より元気で過ごせることに感謝して。

また、毎日通う道の季節ごとの変化も楽しんでます。毎日が少しずつ変わっていて、雨の日も晴れの日もそれぞれで、いつの間にか一年が過ぎて行きます。

春一番風に向かつて出勤す

菜の花の咲く土手を行く回り道

春霞ライトをつけて出勤す

春の瀬戸左手に見て帰りけり

病室の玻璃越しに聞く杜鵑

萩の花通ひの道に咲き始む

日向ぼこ昔語りの老婆居て

小春日や若き看護師頼もしく

看護師と玻璃越しに見る小雪かな

桜咲く中を去りゆく友のあり

《作品鑑賞》

松田裕子

古希を過ぎて、現役で充実した日々を送られている大畑さん、同年代の私にとって羨ましい限りです。忙しい中俳句にも縁を持たれ、豊かな人生を送られているのですね。そのバイタリティーに拍手です。

春一番風に向かつて出勤す

さあ今日も頑張るぞという活気に満ちた一句。春一番がきいてますね。勢いのある句です。

菜の花の咲く土手を行く回り道

回り道してでも菜の花を見たい。待ち望んだ春が来たことに喜びを感じている一句です。回り道が、その喜びの大きさを具体的に伝えていきます。いい句です。

日向ぼこ昔語りの老婆居て

情景がはっきりと見えます。暖かな日差しの中で老婆の昔を懐かしむやわらかい声ほっこりとする良い句です。老婆は、入院されている方でしょうか。介護されている作者の姿を想像します。

看護師と玻璃越しに見る小雪かな

忙しく動き回っている中、ふと窓を見ると外に小雪が舞っている。玻璃越しに見る小雪がいいですね。忙しい時の一瞬を切り取ってある良い句です。